特別
へ5
6272
3

宮城縣図書

寶玲文庫

渡邊千秋藏

渡邊千秋清覽

三 四季詞

四 恋歌詞

五 神祇

六 釋教

アカキ

槻山家藏

58 2153

七 逆懐
八 気高
九 山類
十 小道
十一 体用こと物

十二 あ陽こと物
十三 あ陽五ら物
十四 あ陽七ら物
十五 あ一こと色あ様お
十六 移廻こと事

十七 [illegible]

十八 [illegible]

十九 [illegible]

廿 [illegible]

廿一 [illegible]

廿二 [illegible]

廿三 [illegible]

廿四 [illegible]

廿五 [illegible]

三　四季詞

四季とは時節　月　雪花乃あはれ深くさ
さとしる物は花の色　霧なとも一
わしまさりはしくそのまれなるは哉くし
なほことかきおほかたは上書伊呂波詞
のうちと直にそりつくしまるやすきため
なり

春　此中は皇居神祇を論せす時節の
次第に載之

皇城とはふれ　といふ　四方
四方を直し給ふに清るや元正宣の時也清涼
殿紫宸てつるの事也様々の儀式ある事あり
き故に異名え

屠蘇白散　是は元日也天子へ供し
たてまつる事なりとそ
むかしはよ世の一家次第一里安病る、
其とは隠しなるおめやかい

くすり子　まいる嫁を聞とや

[illegible]日元日やく[illegible]社屋をもつて豊
[illegible]と[illegible]こゝろのた
めしとゝ[illegible]

[illegible]元日ゝ[illegible]かのくし
[illegible]やうゝとてくしけし
て[illegible]ゝこゝろの物[illegible]後宇[illegible]長[illegible]
[illegible]ゝ[illegible]魚や[illegible]天皇の[illegible]
[illegible]ゝ[illegible]ハ[illegible]武天皇[illegible]宇[illegible]始[illegible]
[illegible]ゝ[illegible]

[illegible]ゝ[illegible]ゝ[illegible]ゝ[illegible]ゝ[illegible]
[illegible]ゝ[illegible]ゝ[illegible]ゝ[illegible]ゝ[illegible]
[illegible]ゝ[illegible]ゝ[illegible]ゝ[illegible]ゝ[illegible]
[illegible]ゝ[illegible]ゝ[illegible]ゝ[illegible]ゝ[illegible]
[illegible]ゝ[illegible]ゝ[illegible]ゝ[illegible]ゝ[illegible]
[illegible]ゝ[illegible]ゝ[illegible]ゝ[illegible]ゝ[illegible]
[illegible]ゝ[illegible]ゝ[illegible]ゝ[illegible]ゝ[illegible]
[illegible]ゝ[illegible]ゝ[illegible]ゝ[illegible]ゝ[illegible]

磯菓供奉る者や皇八雜事と云説
八の為者とや　それは度くるを易清仁
芹蒿ホ〳〵七種と類みれまるや
子日　たゝもとゝるゝ　まれはわかれく
もまやと引よりへをためや
卯杖　五尺三すや正月卯日やをす
の鉾とはくまてを儀式ゝゝ
持統天皇ゝゝはしまるゝ杖をゝ

踏歌　正月十一日の宮漆月や御殿とハ
諸國のはたらさやゆまるをあかた
とりゝゆんまり
あゝ祭はす　正月十四日五日
六日まいゝる
踏歌のとゝや天武天皇ゝゝ始る
かはり乃　白衣類踏歌乃
時のるや
清菊　正月十五日百度まゝ彩と
るゝ　あり

続弓 正月十八日射初めけるとて
よ数多へ見あるしるとり
るあか
まつの花 箱まるあるもの
松のみどり 白うみどりを
まわらく松の緑
ハ雑や
椿 もと結てハまるたく椿ハ雑や

柳 雪を結ひてもまるまわ
梅のはな とくるおこかはるあく
いつもまるまり結るお
とまれハ春あるしとしつ
雪見 梅雪まるまわ雪のもうわ雪の志
つくるともこの為まる中まく偽へ
はかれを人人度と易くハ春まる
とくわ不審お離決けるまるハ雪の事
ハ春まわ雪のおこりハ春るへ歌り

なぬか正 春なり　なぬかむまとも云
なには津　ことかきの古歌も
万代　よろづよとあり　此様八皆春なり
佐保姫　神號にあり
霞網　后れ佐にて語るや

春宮 春なり　春の宮とも云也といふ人あれと
祈年祭　二月四日
大原野祭　二月上卯日なり
春日祭　二月上申日也　十一月
にもまつりあれども毎度
祭のはじめとあつて春と定る故に
春也　他准之

仏の[illegible]

[illegible]や三月中辰日なる天暦五年

[illegible]

曲水宴 [illegible]うハさみれ三月三日や

紅雪梅 紅うめとも[illegible]

和歌 [illegible]として[illegible]なる元日晴の

[illegible]乃初春[illegible]

百千鳥 [illegible]ちの鳥とうても春や多

白雪 [illegible]後乃雪乃 [illegible]鶯日ま鶴のすみ

[illegible]すとゝ[illegible]白き羽まて

[illegible]

[illegible]多[illegible]

[illegible]乃[illegible]の声春晴[illegible]

[illegible]ハ白論[illegible]

鈴てとまとまみ雪間や

ふ鳥かくよりはるる日ゆ

ふ鉢たゝ鉢ハ白論音ふ

れなかるや

わらふまふ佐ふ水乃れ

ふ鉢ふ鉢ゆ

草れふ木のもかゝハ音や

蕣のふ蕣まと秋音の蕣ともち

ハみれ　ふるとれらとして

春ちも

芦れ角くろの蕣

ひこまへ 白論秀句事也見れば
まもの類 蕃くまもと之
多事くに別 多有及信之
萩と藤原 事やを野と畑や
くまもの たくひいら
畑うせ 畑田うえいみれまや
宮かへる まもの詞

白のあらくらるハ 秀句只あ
ゆ小明まも と之説西し只あらくらも言や
楽風 ハまもや四寸の風は四事あり
ところ 西一西吹風古皆離や
其西説解 事も為離義事也
はゝ 上已れはまも
白みの白 乃はらへ

いとゆふ　いとあそふに見ゆし

雁　秋至る来　二はまたも見ゆ

かけろふ　莵とゆると　又ハまたと　そわ

鳥の巣　日ますすゝみたる雉るまた云ふ尓ハ
春まけるおおまかなまる

鳥のかへる　春や近日の暮て鳥の
かへるやうにまきれハ比春

他　淡ゝ

枯野　秋　豪　まとりも鶯と
秋てハまさゝや

淡ゝ

梨花　たく梨ハ雑や寶ハ秋や

也はゝ　正也やもさもあれし

いぬるはし　日暮

鎮花祭　花の咲ころ疫神ふ散して
人をなやます故にまつれと
まつらんためとや
文月　しほまちをまちてもまたや書雑
あれハや笑紫をむすれてハなや
手中ふま文の乞り
詞乃花　春ふ春ふあさましといへハ今宮読
ふ春ふ用や
以登文月　もとむもあ㊋ハ梗拙ふこる
ほら串

すゞいみ文月　しも書といへゐ
桜鯛　梗拙ふあられ桜のころハ鯛の
ふや又桜支の鯛ともいふ
桜貝　貝あ浜ふ寄ふ付て春といへ里
さくら田　梗拙や桜のあるさまふ
をいふなり
はくゝろさ錦

とう梅まよとくれてはるまもなく
てをまつやうぬうとをぬきはるはれ
生田そやらぬとをぬきはるはれ
きとりるもまるわ
うゝくりとむまもなこれ
みてもへかゝ
きといつわ
霧よ霧をむもしてはまるわ
はよ書まひれてるるるるる
ものことふあり霧はたゝれ霧は
秋の物なれともまもなくやあ漢せる春
まもみれいれまりはれ秋霧ます
はよるのるるまるのるや他清
ちまむる　とを夜春るまゝれといへ
女青柏れるはいをへ柏
いれかすむゝんるとまのるれはかやう
みれはあれまへへはまるるるや清
文まを書かすまるるはる

さとらへる三とせあまりたるほゆく
三年住るまでもまゐりまゐらへくまれるものゝことえを
春まゝぬ春はあハさやちると云て
春るて　まゝ見るはあるやゆ海ら
まゝ見るはあるやゆ四季のせ
ゆ　ゆ　ゆ　ゆ　ゆ　ゆ　ゆ　ゆ

夏

夏　六月　かさ祇の類四月一日のる
ゆ
神　ちやゝ文とさ是ハ言葉る
きハ　へし
大神　月上卯日也三輪明神
るゆ
稲荷　月日也

平野社四月上申日大酒といえり
まるとなり
松尾社十月申日
廣瀬社四月四日や和泉
式部とあるあるとぶと
ないかりの神や
清仏法願寺ときよきんをだ
仏はしてしのおまし山とぶり
仏はせたまう儀あや

吉田社四月中子日や
日吉四月中申日や
賀茂社神山乃祭のうやや四
月中社頭の日ちう
かものみあ神日のれうや
あつい蓑と柱とをちうけ〳〵と云
やちろよ草せいう神山

のまつのあらうまつまわり雲ハ法華
上ハ別雷神なり

榊　なやら榊もゝ榊葉うつくしきと
もちつきあしの

竹　なやら竹なる竹ハ竹やまこと竹ふしまこと
てハまこと

梅　なる梅なる梅なるハ梅やは

卯花ハ木　花　むすびてを
まり　時雨音や

郭公　うなひもとむすびてもちつや
けとちらふ郭公　法華のそとかも
鶯屋　鶯　おみの音や

小鳥　鶏　おそやそ鶏音や

鶴川　のれそなる川鶴ハ雑きわ川
うゑのるや

[illegible]う和の詞くハしへ書や

紙帖かのこまとしうる事や[illegible]引う[illegible]

照射さけおまるものれみれ[illegible]

唐子かくしまるものの新図ものや

紙[illegible]あゆハまされ紙ハ秋みまそ

季ものの

魚集うけまるとりまう

富蔵彩文まくいれ事もも

魚ちり指年ま六府あやめの

うを南殿ま指の西本ま[illegible]まと

おつとりてあ

くまと玉多こ[illegible]多て出れまものや

木乃葉[illegible]草のまう葉ハまま

[illegible]や

あるいは　橋ところのあるところと
又は　楓　楓ハ紅葉の別名なり
常盤木　松　榊　ゆずるあしん
木のまゝや　みな
草木　草ハ草類　木ハ木類といふ類

林の下草うつろふまゝ
ゆくゝ　あさ　日あ
鶯　蛙　蓮　ともまきれとまて
すゝ　ハ音や
蓮　たゝ　荷葉　ものこと　きてもまぎれまつや

草花ものもまくハ雜や
わらみ草のゆりなどのやうなる
物別なれ共載る
牡丹 秋なれ共なる
なりてしこなの竹を用
和歌ハ名なわ
ハ名なわ

さてまたまれ用ある名やハさこを
藻の也 うき草ハ雜なと共わ
うき草草乃 草の名なるを用なる
池蓋 なるめとうの名なり
田 草とまれ
也 まくは

[illegible]

くちきしの[illegible]　梅雨きといふてもあつや

竹　竹や竹の葉ゆ小雨や

梅雨　梅雨を雨不好ことえや

夕ぢ　夕ぢを蜩きと詩てもあけきの

[illegible]の[illegible]

[illegible]　[illegible]

[illegible]室　乃雷　何と云てもあるり

[illegible]　[illegible]

[illegible]　神

[illegible]　六月一日　ひとよさけとよ[illegible]

祇園会 六月十七日 牛頭天王神の代参
八坂の里と名ふる所ハ君ら
千代とかうへ和むる八坂のほと祇園の
社なり

涼 とを詞 清き事 いそ[illegible]てハ夏
なれとそなハ夜ハ涼しく
内涼なれしてなりの里や
清み 拭ふせくもの夏や只清みハ雑や
くむとふるてもなほてハ
なれとそなハ

象殿 ハいとをとりの里も夏や

月の涼 しき 夏殿 涼しきと
もなつなれ

なる 宝 とたとへても夏や秋やとを流
悪し 北理紙こ易なる夏や

明や とき の 秋 よしの秋なとハ
別なる及敷を
て ぬ 鈴 秋を家 秋と指なと月なみれ
夏なり

みの月ふ　うへの句ふ

清秋六月　晩日やゝ出日のころうり
もうり　初とまえうり月まとよ
めり大文八晩日とこの四日やあうしみ掃菜
の籍すうぬをあさのゆゆしてうとみれ
清秋の句や百宦　蕉　蕉門ふ集りて掃き
ふとうり

秋

一葉ちる　一葉衣たゝ一葉とりうり也
初秋や
柳ちる　柳秋ふ柳柳ふとうり
ちりはもうるものや
相撲ふ　ふ相も秋ふり
名木ちる　ふうりも秋や
初月　月ふつ月ハあさよあゝ

扇と至 称唱するもあるべし

星合ゝ河 星まうる具さと別る
わかれ哉ゝ

ちはゝ神 ちはゝ神の類

和歌浦 天ほれうるゆへ
うらへものうらへらば
ゝゝ白ほうよう事二白ほゝ姫へ
とゝ

天川 紅葉と結ていハ紅葉や只天ほハ名
や雑や何物ゝ
おもかしのあれさゝ ひあゝハ白論紅葉
ゝ

乞巧奠 星をまうるゝや意り
ゝとのてかしれかゝ
ゝとちとたてたらぬる
天平勝宝七年ゝ事とうゝと事あ
ゝ

祈りのいと 始るや
ゝ めさの竹な
ゝ 色とかまてかし

秋七夕の具なれば七夕にもちゐる
盃菜盃まうけまうけ
多屋生の鶏冠と云ても秋也
和多佐加鶏かとうみれ秋なり
鶏　このりまたの類も鶏みれ秋也

鶏冠草　とりかるよ和とりかる字へとも秋
へし　やはり鶏とりこと文字にまる
　　和たらかわとりへ白論まる
小多つ　秋草也多とりる
　　秋まるへしとも
　　説也
多鳥　ようこれへしとも
鶏の草　草くさをとる
　　ねこの鶏とる

雜衣　はみしかの衣の下もや此世類と
きわ〻しく　まるもつゆへ〻
生まれなこるをこゝ者へし

うせ事　秋まるわ雜をとり説典しと
をこふしかの麦師説ほわぬ

みはしの御　七月廿七日やみはし
つくるもは時のるやかや

つくるをと此祭る此れうわ屋のるまわ

お樣　七月廿六日合同廿八日や接
出同を廿九日や年中り事

まくはき子細あわ

北野御　四日　吉田神

祇戸　おまし祇殿文をうへ
られうところわ小りわ

清涼殿をまるの文二月のあれかとまえ
うわ

芭蕉　當同るかや芭蕉もると
祇やとそわ　るわ及載をを千経とをも

蕭萩葉
秋の草この後中
ちる
さらさらへて色秋や
貫之
ちりけるの新草面白や
思ふ
さらのたくひ月を志ふ
ふる

宇治の古園
生敦
田の情
ふるの
紫乃花
ふもしは
の
ふかきまして色秋
和堪
いの月十五日の
後して
月
信濃の勅使の駒牽
義家
夜
皆い月中辺日
ふ
駒

甲斐駒嶽い月十七日

武蔵駒嶽い月廿五日

上野駒嶽い月廿八日

月のさやけきもまた秋なれば

月は秋みやこにかへてハみや

やこにかすり

月の様はたゝ桂のもとにて

も秋なり

月日とはゝ月ひとの月日なれ

ハあるゝ月ひとの月日なみの日なり

月次なり

星月夜

月は宮こは立るなれ

盃をもてもまた秋や

ゆふぎくれの雲

きゝそめし秋より月はまくらとしるしかや
ゆふ日はのるや秋なるあゝ寄

いまおかせ雪

きのむ雁田なれるゝ事や

雁かなはせ雪

雁なるとてを秋や

雁

まよひ多と結てもあきや

鳴雁

秋や鳴雁の鳴るゝまと一向不習
鳴るものゝうわてをうく渡るゝや
鳴いも雁走るの音なくまと走てを
あるきわ

鶏鳴

秋涼しきとゝ夜明れて
ハあるきまわ

鹿

秋やちるとまてもあきや

椿 まつも同じ他 清き

椿 秋やひろふまつこそてみのはたあ世ハ
於秋やとハ昨秋と云説も習ハ秋や
椿集 もあまるわ

椿 あとまつまと走てもあまや

えのみ 白論あまやあ別 木の實
おきまるわ

梨、實ハ秋やもハまるや

柳 うつちらたくちるとも秋や柏と
りるまハ雑や

柳 秋まわまくう山と又ハあるて
あしいと云説也 秋ごの歌歟

柳乃宮 きゆまのちるや

はちさめ

一 八月十一日第
宮の涂月や

峯乃梢錦
野宮の清祓乃くし
く清れしや月 しくれや なくとも 同
鴫なく 康の狩人のるや一説に秋 も風とされとそめ
落鮎 おち鮎も同

簑虫三條・みのむし なと もなく
みなくとしては 秋也他浮き
後燈九月三日也峯にかゝる 秋社燈よ安の天子の小辰を
祭禮に清るや沿つれあらせふく東来り
重陽宮宴 儀あり 菊の酒まゝのなを鮮く
後の月 ハ前の月也九月十日より残菊の 九日事

伊勢寺歌合

九月十一日

伊勢の海人のみ社

きゝゆるもよめるこゝろ

はつかりのまつわくくん

と言葉 秋はおもしろ

秋野

なを露 色とりかさねたる

色とゝのへハ秋や

月 草の葉もおもしろ

野山 秋ふかし

夕 みうらの月

夜みれ秋や

夕 みうらの田もとゝいても秋なり

夕 ふかき夜

夕 ものもおもしろ

小田 もとゝ白論あるもの

紅葉 かゝる歌 なれ歌

紅葉 ふかまり

そうせひさるこかくしまの類
ひ（みの秋や田とものすうす
ハそうも植地よこるさらあや
かまくらの色　まとまても秋
ハみなあれともあこしとふ多の草の花
ハ皆秋なるまり　のなくさへて
萱ら氷端秋まわあきまるら
ともあるうへし　まとりつ一説あり

鶉乃霧　霧乃多まとも秋まわ
う庄田鳥　庄鳥あまり秋や
まともあまり
男　よ志　男ゆ論あるやゆ
まるあ及載　まえたゆむまるとあ
秋ゆむ　秋とゆむみとをみまとの
てハみや秋ゆ　みや秋ゆまも秋や

冷　おろし　きたと云ふ　あかろ
はは　昭秋と　そのあ事や　ふもつかし
くあ　ろへ　ろ

霞　霧　み　あ　の　時　面　また　二　名
てきて　は
秋や　は　か　を　せ　一　白　の　ゆ　を　ろ　ら　は　秋　や
は　せ　は　ま　と　い　れ　ま　も
あ　ま　ま　の

霧　霧　秋　あ　ま　て　え
あ　き　ま　の

霧　霧　ま　と　秋　を　て　い　あ　き　や　は　ま　の
あ　ま　て　は　み　を　と　も　そ　の
ら　は　ら　ぬ　多　や　松　の　一　も　と
ま　と　云　白　の　類　は　あ　や　多　と　は　字　の　て　は
大　田　名　秋　ま　ま　る　は　や
葉　ち　ま　せ　多　せ　ま　く　て　も　秋　や　か　は　く
白　論　草　は　類　ま　は
お　葉　の　ち　ま　は　み　ま　れ　と　も　多　多　な
も　を　は　ま　は　あ　ま　や

[illegible]のうらぶれたるものや

川乃ゑ[illegible]

とゝる

ゑ[illegible]

[illegible]ても秋[illegible]多とゝ[illegible]宮のハ[illegible]

[illegible]ものをみれ秋[illegible]

[illegible]みちゝ[illegible]ちる 木の葉うせ

ちるせる秋

ちゝ[illegible]ふるとゝ[illegible]もかつ

[illegible]ちるこの雅

[illegible]ちとも多とゝ[illegible]宮

[illegible]ふれて秋や

秋よりハ猶[illegible]宮[illegible]松風

[illegible]ゝ[illegible]白も秋やや淋[illegible]

[illegible]よりハ後[illegible]

[illegible]ゝ[illegible]日も秋や

冬

中月更衣　朝日さす日の衣うへ
時雨うちとくよりかはぬるすゑ

和歌　冬やきをとりてハ
和歌とうたせ秋や　間の時面
降物やはこうるさきふとうたり

弓場始　十月
立日やさ　雪富　日日
まわ

和紫ぞちうすて　物をぬるうすと
もみぢ　もみぢ
もみぢ　紫ふ　ものとりの類も多と結てハ
秋すまわ　ハみや
木のはぞふ　木の葉衣面
枯うち柳　うとうとうんハみや

木乃葉さへ落る　おぢかちる
をむもひてをみれみそうへし　も月まと

名草のうち
のうへ　たくひまうへし　萩もくまと

萩　まとの枯れもゆやもを枯れる
をむもひてハ皆秋の中まのはち

ちつくゆうる乃草まと

まとつをてもこゆまわかつ落葉ふるまと
うえうへし

月乃さゆる　みやゆやかハ秋や

月よさくる　まとも　みや

月の雲　みやゆ降物や

雲ゆ降ゆ　雨もみまち

和歌所 桓武 天皇延暦年中
よりこのかた
はるる とさてもみ
ちわ
歌をあつめ
はじめられ
ける きもふゆや
侯爵 白河
院

富士ぬまの
雪 今ハふゆ
用や
つもるのてかは とさ川
ハみや
白論ふ
ぬまの
ぬまをしてもおもふ
ぬまも白河
ぬくこそ
としてハみをも
おけひおこりわ
ちあまをはまを
ゆかこまの

新嘗会十一月中の卯日や

とよのあかり

豊明節会十一月中の辰日
やはじめの日よりかぞへ
すゑして節会のあるや

とよのあかり

大嘗会は
神ゐなるあるる
やめたまふことりわ禁裏の法なるべ

きハめかゝ新嘗ハ毎年あれとも左文なるあるを
又換りくて載そくかわるくあるなり

北斗

祭儀は時の祭や寛平の法
時よりはじまるといへわ霜月
中酉日や

日蔭糸

うけとも日日かけとも
糸をなけわ事かゝん
けりなかるれやとそ

水尾

神の社山あ井の神を田五
中社おれ人のるるものや

嘗乃參又大嘗會之時用物や

黑神系と云て

神系とたてもみやはかくる所うこ

ひねみやや榊葉うたふ時星

きりくもかくうみさつやのことけば

ほうこふまるをかうふひ物みれみやさい

ゑ〳〵みうたひ拍ハ皆雜や奥ゑ住こく

求子まるとかくるみたやや

あけすあそひ日あ

ゑ色ゑ衣くハ黑こゆゑ雜

ちゑとり

説典しと

いろわ 綱代 ゆるまれハ物みを

まりまる

まけまを 求奥

雪物の類みれみや

終塲の雛 うわさの名ホみとさあれ
ところ小田の里ほめぬ
まうるをしへ草香の鷹飼の道具
まみやましの野の末帰し又とやこめ
ハ夏や秋乃すこの里はよ安か四季のせよ
むつかしきものや

おちかむらる
霧を捨ても秋や
たくどみや

あいの大 やかや

鵆 名を捨て 秋らん

うきみ大 日本
名 日論子艶也
綿 日本ちかの

内侍所御神楽 十二月十一日

荷前の使 十二月十二日
のゆきの終きとくよ安か

仏名 十二月十九日より三日之間なるや
俳とおふるまにはよめり

年末年始の類

ゆく年

ゆく年ちらちらと皆
みゆるわ

春と云ふ事

十二月晦日より初春食物
まとゝものあわて天子さゝ
まるゝとゝわたてまつる掛ゝの儀式ゝ
うゝまたまりわよりわよりはちわるまゝ

異々神代より始るゝや

鶯ゝ 四日ゝ鬼やらひ おやらふこゝ
まとよの鬼ゝ柳ゝ 華社矢まて
邪鬼をいふる まとゝゝ

春の内乃ちら 連歌はみ
まり 春ゝ
まゝ乃中や

四 俳諧 四季とも春ゝ
さゝ夜ゝ
をは 雜さる

諏訪明神　一とせに七十五度あるなり
雜や榊とるとゝへいるや

藤原氏宮　此社は出雲国にて
氏こそ有ハ雜や

祭ふる社神
涼しき道　拾ふのうきは雜
や

はなたゝめ　まうむ　きとも
ゆ
きゝ体象　黄泉の素や

ゝろ乃月　心月籠こそや

月日　とけゝるこたる夜月日のゆ
体ゝは雜や

天のうき橋　多ゝ色ゝあゝ

いしのうへ　　[illegible]

[illegible]うこれはみれ雜[illegible]

葦垣　　葛木　　夢殿山　　[illegible]の

奥山　　淺緑　　[illegible]金吹　　鈴鹿の

虫殿　　河口　　[illegible]の草　　竹の

鏡山　　田中井戸　　倉垣　　[illegible]

大宮　　長澤　　高鳥山　　掃門

紹角　　[illegible]　　以上呂[illegible]や

貫の　　[illegible]井

家屋　　芝井　　[illegible]海　　蓬生

[illegible]門　　大井　　淺[illegible]橋　　大道

美掃　　蓬[illegible]　　[illegible]の　　[illegible]口

西寺　　鶏鳴　　鶏[illegible]海　　淺や

以上陳類[illegible]ものうたれ物

[illegible]久[illegible]　　[illegible]かは[illegible]と　　[illegible]井　　上雜や

[illegible]　　[illegible]井[illegible]雜やとよ[illegible]

[illegible]殿[illegible]とハ社[illegible]れハ[illegible]つか

[illegible]雜[illegible]　　[illegible]不[illegible]　　[illegible]れ[illegible]　　[illegible]らし[illegible]

[illegible]の[illegible]　　[illegible]上[illegible]　　[illegible]ハ[illegible]

とゐ寄るあだ人や宮ゐ見北ゐこのおみ繁
つかるむすと結り〳〵この屋まさや

松のみとり　雜やみとやしつを見みと里もまさや

蛍火の柴　橋もと結てハまさや

花ゐ柴　とけ〳〵ゐ〳〵ゐ夜雜や

ねこのてうしとゐても雜やあら〳〵か
しゑハ紙やとゐ説ゐ謂とやゐ雜や

書柴　柴とむすびてハまさや

木の柴　この文乃仲も同ゐ

竹乃柴　雜やゐと説悪し

山橋　草ちゐ雜や書ゐとゐ説まさ

蓬　蓬茂茅市も同雜や

雜やとうむ〜ゆ来ハ来やもと志も
して八紙ま〜ゆ
ゑ草　をむすひてハゑや
いけまてゑ　をとろ
草生て　とゝ云ゑも雜や
野の志けゆ

野る田　とゝても雜や
男ゑ花　ゑゑるやうとゝゑ初ゑ
彼の毛　白のゆゆ体ゑゆ
へし　ゆは志ゑゑゑ考ゑゑゑる
野ゑ　雜や　志ゑ　賀の心　初ゆ
ゑゑの開　花ゆ雜やゑ雜ハ関の文の
みゑゑ　いゆ論考やゆ塗ゑ

清水とりまハ雑や志すふとりへハ
雑や
みむとふハ白論雑や
みけ水まれ日ま 野雁日ま
鴨ハ雑 さしの類けか雑乃多類乃及信こ
鶴乃菓日く子 鳴日白信菓

雑や
ちきろふ 雑やかけろふのもゆると
雑やまれハまきや魚のいろ
してハ紙よ志へ
ほ紙や
菓 ま志 雑
ほくちよいろも雑や

廉姓圖 仏の性を説くを廉略圖
みたるなれハ雜や
かとゝ作て まとりつる
狐 狐うさぎなどのたくひ雜と然わ及
載ゝ
臥ゝ雷 ねとうつる 雜や
扇の象 扇なる
うゝ里犬 雜ゝと思ひ侍ハ百うせ
雜ゝ
たゝ雜うゝへし

すゝ木風 風あるゝ吹
かうゝへ以上何さも雜やうゝひ
五神祇 神ゝ示さゝゆゝゝ大經載ゝ
天照戸 ゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝ
玄扇樹

神海山

神山 嶋宮 鶴の羽嶋
ちまうらうきの 板橋
大膳屋 大内 ゆもあり 屋方
あそれのうけらの類
いみ竹

よるへのゆふすみ
ふるゝ衣の類 東屋 東子
しゐ女子の類 いもぬ
ひまうき よへ 佐渡
次神系のうさてし物子

韓神　本綿　志ら
お帳（そかうこたちの神祇を祠る器）
六　釋教（使國國例抄　まつの類別
なりあり記）
鶴岳　鶴林
我古杜　使岸

室乃戸
聖なむ　うふ　三車
三世　を時
一夏　只一音とりまか
なりへの　教なあり
堂　常燈

衣玉　山法二月のろ
六道　鵜の目　い目
擬法華　法華八万のきり紙教なり
強文要　おの論紙教なり
おりあ　ものしへはとめなく

七

述懐　述懐と法ようとる四十二や
八万法ハ一名述懐の
まねしきるうまるる

昔　古　花　世
親子　昔衣　墨法袖
隠者　擬方　夏方

扇の類や白く十二やとよう迷惑の
言うわと云とも不審紙は迷惑よ
不用末や是新末の頃や生るハ不可為迷惑
雲隠衣新敷しうへ来うのゆを言ひそゆ法
あわと云ハ代よ雲隠北仏弟子を衣服衣を
多やや又墨絵物よすそうめ黄衣同類
とは絵新式今あ来のことくこの用をや
是今安や出迷惑ものあ新敷りあしい次よ
夏多余をとあるよるへし意ものる
ゆへなり

中二をかよる　白鷺
ものの類
ものけり
世切うむく　古扇道
ものの類
鏡形新乃
つみとう　とて来ていハ迷惑各ト牛ハ北
迷惑北罪科ハ新敷やとよう

い[illegible]

[illegible]

山の[illegible]（このはゝるらへらぬ[illegible]）

まかきの（袈裟の類）

[illegible]の[illegible]（たらにの[illegible]ふ里の[illegible]）

[illegible]

[illegible]（[illegible]）

のるゝ[illegible]物や[illegible]ハ[illegible]

ゝへ[illegible]ものゝ[illegible]

[illegible]ハ[illegible]

[illegible]ハ[illegible]

山[illegible]（[illegible]）

山[illegible]

山[illegible]（他人ハ山類[illegible]）

山らさと　さとの類　山梨　さとの類

やさと　なる関山類やとは名は板垣柄白河さくせきのるや

白河寺　雄生山関山れうんしとさ

なつせの　山れまれ宝鐵柄

緒　よ山れてあり

すとあかた山れうんきと今とてゆお

たへの緒とゆ所やや

高の山　はるれの為名に高乃山のこ

ハ名にてあ山類よりまきまし久ら

とをつちるとをとわさら

ては生だるるハ北のいてさらあ

へて羽ゆるあり桃高のよくのハはる

ゆり

信濃　ハ山類やほ濃う原ハ山類て

鳴　よ高とて

もあり

松鳴　お濃ほの

ちつゝきの山 岩橋 は山類只岩
くめち岩橋 橋ハ水山類
富士
葛城 あけぼの
葛城ハ体用のかゝる
とゝ木 とりの里も山類

畑山れや

かけすし

水山類

雪山 天竺大雪山の子也 白雪山れば
白〳〵まち 月とふる雪の山人
ちとしよりの姿

鷲山峯 水山類

雪山 ちくさ

山賤 山の字は
白論也白

山鳥 白

山人 山の字をこゝる
人こは同字也

神の宮

吉田川 ふるの
山類なる

奥をいとて
あり

富士川　宇治乃河鳴

田籠ヶ浦

三鳴　豆州よりあめつちまでつゝき

信鳴ヶ原

よもきヶ丘　鳴園

室乃い鳴　ゑ[illegible]まあゝい

須磨浦　山類ゑ[illegible]まあゝきゑ也あゝきゑ

河鳴　をいつくてを山類ゑあゝい

かまみの閑　鈴鹿浦

回まくらの閑　木曽浦

吉野なるおく　吉野
小野の奥　小野　ものも
山類
高まのとの小野　三輪の滝
ものも
とし古堂のへ
小倉山　さつ設　いそても山類
よあしの

高砂なる松　淀津潮
おちたる片
備後川
蓮の松　極楽ぬ　宝樹
岩屋　人麻呂　ものも　弟室　同弟室も　松人
山類

菊

きそ野 末の字なる 二白嫌 [illegible] なる類以上 みれば山類

十文字 追 紅芦なるの類ハ除く

伯耆ゝ神 [illegible]

教生 神祇や生の字なるこゝ

陶器

三椏ゝ 清 [illegible]

[illegible] 松ゝ 清

広 明石 [illegible]の文字とゝ也 [illegible]字なる用字

きれはからハ新の文字なるは一切なきなり

雑 波津 ゝ文字なるハ [illegible]

清見寺名に於圓は

浦にある関　名高きは清見か関　門司乃関まて外浦に

あらせ来水道と以ふなりや

塩小船又浮世山　といふ　てき水

過ぎなり

白論の過ぎは浅瀬鴻と云ても山類ま

浜まで名道ならすあらし

田笑嶋　三鴻　拾好の三鴻に　なりや

さてさ乃嶋

志賀於一重　なと云ては名道　也只志賀名道

さあらし志まれハ名道なりへ黄なりめる

とりつか三陸園水過志なりへもんとや

松嶋　小鴻ま

來室

清水辺の蛍　流逸

白妙の花の花　松の木の

はなちてなくてやはらぬ

ハめるとや

田井

片らく

手洗の水　手をいれても水遣や

ちけれ　みやこ鳥　みやこ

水鶏　水辺なれども水

彩の富藩　おやめハ彩ふこ来て

何とし　こゑも水遣なり

ますゆゑ　水遣なり

杜鵑　鶯　あす新くしとるまれハ別

ほとゝぎす　鶯の類をかゑ　草の

五月雨小庭も海の如
きとなりてもの思ひ
月なしとなりぬ上こと
くなるまゝ

他流

水を追ふ命なるこゝろ
物すてと成るこ
雜波 同志寺なるよあり

志賀 同ものうもの秋の久しうあ
なるまゝ わこゝ
とつたても此
なるこゝ
住吉 とりまいなるみあり
ほゝ
なるこゝ
横川 白論山類
なり
戸のうハ野

明石浦　ほの原
松浦潟　天井岩山
須磨の関　白川の関　山類
高砂の尾上　山類りまや山
高津の宮

恋川　渡いつきぬ心といふ川　此名
過多に成る事有り
むろのとまり　渡川
三瀬川　天竺渡橋
夢の浮橋　若屋
芦屋　芦屋いつも此名所の
芦やかけのあやまりいとて小

文通種紙書手ニあるへし小や

新そゝろれ 水を通栗 文通

志けくのこちかゝるをたるひといへハ八や

みいまくれまひ乃たまひとい八水通

やめやみえお覧やや

新乃玉を

自筆状 渡書来る 来同書

小田也

筆代 手筆書

小田の柵 まといひても文通ゐ

あしひきかたのことを

小田のかけりしといひても山類ほ

まとへまゐり

袖折くを 國の海

硯を 布使まゐ

蓴菜

雁鶩鴨

よけ物乃水辺なるゆるまれこれ多し

かくれ多

蓮

詞なるまるやうなるまと

詞なるまるまあるまあるゆゑ

まとゆ詞にいまなるれ

太まはひしるやゆ上皆山多

十二 水用なる

山類水なる

岸なる

瀬 嶽 畑

囲屋上　垣　柴屋　板

谷鳴　けが山なるゝ関ゝの類

富士　淺間　葛塚　ゝは山類体

国乃おうまるへしとゝ　ともたゝ山類

の体なり

国ゝ命

滝　松木　林　柴　窓

ゝ追体ゝ命

海　浦　江　湊　堤

渚　鳴　真　磯

手酒　岸　汀　沼

河 泉 洲
圖 摂 津
庵 たるつせとゝいて
日向
用ゝ命
信濃 珠 珠室
手洗水 陸 閑 殊

清水 ちまと 清水
日向ちわ
本用ゝ
清水 紅 清 湯屋
湯殿 類 蛭 杜若
菖蒲 菖 蓮

[illegible]　[illegible]松　[illegible]
[illegible]　[illegible]　[illegible]人
[illegible]　[illegible]　[illegible]
下樋　[illegible]　[illegible]
[illegible]乃[illegible]水と云字あれども用る
[illegible]以上体用をかや

[illegible]
軒　[illegible]　[illegible]　[illegible]門
戸　樞　[illegible]　[illegible]
[illegible]　[illegible]以上体[illegible]
用[illegible]

履

履屋まるの居ゐるこゝ白煙ものハ体ゑ不煙
関の松ハ作ーまるてもみにゑ二白煙や
みいえく室の戸宮居居まるゑ出里神系
伝階おい上みにゑ

新物体用てて友

俗名まるとゑ白ゑりとゑ付てゑ川ゑくる
とゑまると付へかゝれ白ゑ用まるれや本来

とは付へし是体まるゆんや打ゆ体まるは
又不の紋長とりゆ白るて縄と付てゑ紐
とゑ不の付てゑ川体まるゆんまるゆくく
まるとハの付てゑ是用まるれ以上まる表花まり
を本麦師説伝ゆ表ハ体まるれ川
ゑくるをを本来を紐みれ用や式用ゆ表
まゆとゑつゆ

みいえく極れ出まるれ表ゆいつゆも二
白ゆ伝ゆをよゑ体用の由伝まるれ
ゆみれ三白ゑこれを伝くをへしまるて

けんための体用ゝ俗名波とゝて浦と
つけてゝ多ゝ者とゝ体へくゝ用ゝ
中ゝ体へたゝ者ゝゆへ也芦水香紅藤者と
社体用乃かゝる物ゝ者ゝ者ゝ者ゝ
也又体の中へ用をいれすゝるひゝ体用ゝ
用体ゝあゝるひゝ体ゝ用用ゝ体とゝくへし

十二 天地物

日月星 ゝ者ゝ天象の部

雨 霧 霜 雪
露 霞 霧 雲
雷 電 虹 霓
木ゝ草 虫ゝ魚
鳥ゝ獣 名所と名所

みいとくらにと國の名八二名也

七夕 月月 天漢星名也

十三 面 白物

回字 日 日 風 風

雲 雲 煙 煙 此星八七名

雲

髻 髻 山 山 浦 浦

波 波 信 信 乃 乃 道 道

秋 秋 木 木 葉 葉

鳥 鳥 鉄 鉄 虫 虫

恵 恵 恵 恵 路 路 乃 乃 追 追

矢道　屋根と屋根
雲と雲　遠情と遠情
神祇と神祇　釋教と
釋教　袖と袖　衣裳と
衣裳　山と山　乃久に

浦と浦　乃久に　原と松原
（浦ハ海ノ原ニ出タル地ヲ白地ト
可得呂波ノ内ニ入ル）
十四　面　陽七句物
回　季　月と月　松と松
竹と竹　田と田　衣と衣

夢と夢　間と間　舩と船

舩字は天盤舩天間舩未の陰七白必
ふ舩器山佐舩山未舟の字立
白へらへし

衣字は衣の衣陰必衣未七白へしと
へし此れこの為衣類衣何衣ま未森
衣の字は面輝立白佐
雲字は雲鳥雲浦山未日ま也

田字は生田田上佐田森未日ま

竹字は竹田竹日未以上淮舟器
衣日ま衣ま例面輝立白也
枕以上みれ七白ま也
十五

面いる　日十白ま間面輝素

新白いうやうの田かの書籍考説
と以てもと上変化言をめくくたて

とへし

腰白

ようゆのみちるかまくらちる
嫌也 殺白ようるるようなにはなかホあ世ハ
ちるさくらかれしなにちるをわかち雪
月もまくるなり時雨ハいも殺白ようおふ
なるやうにまへ今わらんとめさるの体
腰白ようホ山合ようるのやうるるみる
まてこの紙書世大文とよるみもけ

第三

ようまハちちる本流め来るるる
ふこの紙腰のくろうをくるれ一俳

たくまし今は古ようる上まのうへ雨ようる
ハみまるとまるくとめらあくるもあり
たくく書通ようはてるわらんとまるうへ
き狩

四白め

ようまハいうるまうろくと
まへくしくくみるハ白乃
連歌の用ようるとて嫌や

新古て

ともるる十るくうち悪しハ
嫌ハ白ハホ芸やるるとを
も嫌るくはるるくす

世の字紫乃戸へて也
むすこ懐かしく思ふ

部屋の撫子
あかはらの撫子
唐なでしこ
おもはぬ出る事
こころなり

後葉生成し
不二の形出類安除泥ゆん田器を
森
森ハ樹二合て名になる故や
関
関にもけ類多へし十名のうち為安益
ものなり

豊増侍参り
新敬を敬名度

あの脇は新教めるとを説あり不お然新教
のなるこれはあれさ〳〵ひまを〳〵んう
神祇〳〵みの教は多度あうる
此神祇を〳〵すせとをいうわ や必脇の為神祇
名にこそ教は脇はみ名に西し
先指こるは多しとわ若とを見えこわ
上善 をとは新教本懐〳〵旧義傷あを
教なるを脇新教おのなるをけ

せとをいわ此おは時旬
事を の教は〳〵んうは
神祇新教本懐旧義傷
あを泊ますうを〳〵ゆえう事悪し
名にのなはあしあうるや越別 蓮せ
峯せるの茅屋かは志賀乃煙や紛タ
口おいこうことを たゝやすゝと十るの
内はあるへし
打のを〳〵をこのやうをこ白煙てみ
とをのみをるよこもわ若や陰〳〵

田字をいはりてまことにめぬかれ
ぬ[illegible]立るさのまことはらるし
かれ

風とさて立るさて又風さるの類いる
こゆるまらるしかるこの他凡そ

五乃連歌 [illegible]るい山類を辺抜如後
[illegible]お諸さるものやうなる地
ていうかとるかろくとやるへしたと
へハ序ふまれおもしろくしたんなく
西風体なるへし

祝言うの志へき 連歌ゑ五ゑ春
秋乃ゑと四ゑ
いとぬまれまれとゑ説あり一向ゑ由体
高尾ゑやかやうの田舎説紙〻ゑ[illegible]ゑ
ゑや恋ゑ乃いゑ
五乃四ゑ
ゑ[illegible]ゑ
ゑ[illegible]し悪説ゑり
十六 [illegible]題ゑく事

蕚とは白ゐこうれんと付てゑ花
まと付る華不この外紅にて是を付
べしとゝいたるものをおなじもふかひも
こくゐめとこゐとゝゐいや紅にてこの付とは
こくとゝいふるれい一切まお紙まふ限れ
ゆへや

燈とゝ白ゐ里と付てゑ紫たくまと影
火の類不この付とゝいふもみれ輪廻や

夕吉は夕とはてお紙ま電雷
きゐへゐ

ゐ冨士と付てゑ氷室因ま他淳
夢とゝ白ゐ影と付て月ゐ
付ゐめゐまと式月ゐゐゐ
ちとお蓬やとゐわはやうにゐまてわ
とゝゐか四時勢変し山海草木を情服
情美池ゐ紙いと付侍へしゐをつけを
ゐゐままて輪廻ハ出来ゐものまわ
一白くゐあゐぬゐへうまもていを
連歌の大言ゐゐゐ末へゐへゐやう

なる事をいへハ後日の事を一云なるべ
うしおふものゆゑ第一のいはなるへし

主殿廻り

もゝ付る風
雨の類不及
由ゆとはなるべき各別なるべきはといふる
やうにいへハ一の形なるもとなる屋上形
形雨なるとはてゝ二三の形なるもの
なる山ハ雨なる時なるとなるやうな
なる雨のはやうに降るんハ不の形なる
何と雨ハ風雨ハ降るべかるべし

みいさくなる梅樹松なるなるのやうなる
物ハ形と陰てもなるの形なるうゑ
ハゝ神てはへるべしみれを殿廻やそ
分書月をとるなるハ風雨なる霧ホ山
なる白なるは主殿を殿廻のなるハのなる
かゝるべし

十七 燈籠廻り事

春ゝ夏

まき船　春の花の川辺

らまきゝ白　梅木　庭梅

うま梅　花は寫と云詞也

ふのうれまくてなゝも雪とは子細なし

かやうみてよさもくきもみや

梅ゝ雪　ゆき乃梅　小柳

玉ゝ小柳　ようも西し此ふ花ゝ雪

やうによるへし

紅梅　梅のおもろを

白梅　綿ゝおかろ

おかろ月　おかろ月梅とはよし

お保梅　有寫

はたくらめ　悪しつくめとは
夏て今
夏てもの　一夏繁るをとハよし
夏草　青木立
青楓　楓はよし　青楓

梅花　むらしハ白梅ハ庵ゝ
とあれハ白梅ハ
へし　あかいものハ不好
たゝし　殿ゝ下ハす
雪乃山　市のみ不好花ちる
えやしの　雑　数大雑
堂大　堂大よし　ともいちをけけ

蟬のしくれ　なといふ詞

初時鳥　後撰の哥ニ一首あれとも
ことは悪し

ともしる里　ともしまきはよし

初ろて里　乞う流木

うへ田　以白乃流けやうてよるハし

夜川　鵜乃ハ夏てなくハいろくと
いそか

秋ゝ分

秋西　旅居　萩乃雨

萩於風　かふくがうあれともをとこ
風とはよし

はまもと　藉草なといふ類悪しや
浮くゝ

やへむぐら　やまとハよし

あすあけの月　きりぎす

あけの月　ゆふ月

田ことの月　きりぎす

田あすあ　田ともるハよし　竜田山　竜田ハよし

霧面　霧の事　意

鶉うすう　うすう衣　白ハあはの白体とよめり

重ね紫　ね紫重

冬ゝ冬

神さび　月　西し神さび月　よしよし

冬紅葉　冬梅

冬枯の道　きりぎりす山

うきてはめるとそゝ

うゝき雪　雪塩

山時雨　時雨　はよきく

はよし

雪　きりぎりす

小雪　十月　きりぎりす　きりぎりす

とけ雪　雪解　雪路

大雪　いつもあきたるゝ

雪くれ　雪小おの　雪つかれゆう

雪い　雪の世　雪の世

無意
我意ハ只ハ不若須臾自用ル
中の文
さい事
あこ夢

好意
ものをもしといふか
あれ人
あハ情
さい事

悪ひ事
おもて
之乃えれて
とへとの
う意情

悪れ文
きとうちられらめや
別てきふや
あてとの
ものいひ事や
ものをかく

むし文 浮文 浅黄
かへちら里 うす墨
いもせの道 とも君
あはぬえい かいとよ 錦木
た樓や
ゆめくまへられ
ひきち帯 といわ

詠ん合
詠や流行 幸詠
詠とろし 道流れ
幸尾 門いてとてよし とは
て船いつまも あしきこと也や

山類

山寺 かど山寺ハよし〻山ちハ
わかさとそ

山嵐 山もと 深山里

ちらす山里 冬里 夕山

吉野 雪 梅 櫻 きさ迄ハ雪ちる
いつれを嫌せよ吉野

乃こもとゝ雪りもよ嫌なあゝいけく
ちすは まもはゝ雪おもおもろゝはる
ハるゝ雪や

夏 遠く夏

夏 言 水乃をとゝハよし山のしゝ
言たてゝきたけきゝゝハ
ゝゝ夏きゝのゝとよし

夏田 みち 愛 みつ夏ハ
よし

堀くみ
堀ゑ里
うゑゝ風
ちよりに船
里ゑ船

おちゑや
堀ゑ市して
堀風ハよし
ふねちけ
ゆ船を

船よりまあ
ゑ悪しそれの類美物ハ詞のてゝ
ゆふく来夜ゆり

うゝ里　うゝ乃　ゑ浦

浦人いさの浦人ゑ
ゐてけてハよし　浦てし

弱田川風　白波河風ゑ　それ波ゑ
ゆる　詞ゑ

波又は
波音のようなる事
はよし
波とも　まとゐ羽ゐる
ようなるへし
物ゝ里のことゝ
ようなる
雜　江田
波邊
雜　夏
新古里
秋風　秋風は
よし
秋衣　まと
秋はゝ　ゝるゝはよし
うゝれゝゝ　ゝもと
うきゝ　鶴
時鳥　時のしゝ
はよし

[illegible]里

[illegible]の弱　野風以不若ら

[illegible]里　[illegible]屋　[illegible]

里田　[illegible]

[illegible]里　[illegible]里小野小[illegible]里名[illegible]

[illegible]

人里

[illegible]

[illegible]

[illegible]里　[illegible]

[illegible]里　[illegible]宣　[illegible]

[illegible]りの初天の[illegible]

[illegible]世をすて人[illegible]人を　[illegible]人

[illegible]ましてはよし

人こゝろ　子を捨て

すて子
賤乃め
そみらくだ乃白論を頂きわけ不可
白頂ハ用捨の為や
老らく　老らくハ人きとハ
ひ用人　かけとゝ
墨衣　うす墨衣ハ
よし

田ゆおも田のもハ　野田
よし
りゐあひひ　きゝ頂
くく
結乃ねゝ結乃とと　結のす
よし
ゑのす
ゑとこゝろ　袖乃はゝ　ゝと三
類
禁とす

禁うもて　あるもおもひ
竹の形ら　ものよりとなれ　いてとは　このこ
立春　夕こ　道とら
ものらら　みやこ　ら
丹波猪　ものけ　猪太

うはこ　ものこと
時　あれ　時　あ　時　あ　ことは
見　見　みる　せ　ハ　ものは
けとめ　の　こ　こ　けとめ　ものこ
ちかけ　ものと　こ　ハ　ものこ
おとの　ものり　ものり　ハ　ものら

なのくと　むだつまはだつもきと云
体五　みきるふこのぶとそ
みこゝ白る　蝶ほるる
むうへて　きと　ちこゝと　ぶて
類五
ねちい　ぶて　きとふとい
おもも　ぶて　白る

ほみこれて　以上三の白る蝶の
ぶと　きゝ　こゝきれら　ぶ
こたけく　ほ里て
おもい　ぶて　命つハし
きてみ　ぶい　きとふこと

[illegible]て[illegible]へ[illegible]大い上品[illegible]
[illegible]かゝ[illegible]詞[illegible]
五月雨[illegible]
おもいぬる
以上は[illegible]
いつも[illegible]
[illegible]

上乃句[illegible]
むつかし[illegible]
へ[illegible]
下の句[illegible]
志ろゝ[illegible]
いわあた
[illegible]
[illegible]
[illegible]

こゝは広
き所とみまゝへし
思ひ出ふ好て
けやうや
已上下のゐけとまるにそゝ者まわそから
北たくひまゐし下の白ゐけみとまるて毎わ
千ゐるゝをこりゐるとまるへしゐるも
下まハ空間ゐるへき須ほい毎わゐるまと
とまる事もまくれぬまゐや蟬宿とゝへ
ともたゝ人の穀ゐるゐまゐゐゐ一わ

あつ方ハ穀ゐるはゐゐかゝはゐる
そはまゐるゐ之通のはゐまわみせゐこま
ひていハ一たゐや

三の丸のせいかん乃図

と云わとまわ之しとも出ころハおか
きまこしゐわゐるゐ子毎わやき
ゐんゐゐ之ゐ之ハし